

## 2019 年度後期「学生による授業評価」に関する検討会

# 報告書

### 学科科目以外の科目

#### 目次

総合教養科目運営委員会	p. 1
総合教養科目<女性のウェルネス領域>担当者会	p. 2
キリスト教学科目運営委員会	p. 4
第一外国語運営委員会	p. 5
第二外国語運営委員会	p. 18
日本語科目運営委員会	p. 19
情報処理教育運営委員会	p. 21
教職課程運営委員会	p. 22
学芸員課程運営委員会	p. 23
女性学研究所（女性学・ジェンダー科目）	p. 24

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年 7月 15日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：総合教養科目運営委員会

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：曾我 芳枝

■検討会実施日2020年 7月 8日

■出席者数 6名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

好評であったこと

・「面白かった」「興味を持った」「他の人の意見を聴くことができて良かった」というコメントが見られた。

・毎回席を指定し、新しいグループで心理学実験・議論をするようにしたところ、友人をつくりにくい学生から好評でした（授業内コメントシートでそのような感想が非常に多くありました。）

・授業中に実験実施・集計・結果発表・議論までつなげるアクティブラーニング型の授業を行いました。学生から非常に好評でした。

・教室外の学習として、チャペルのオルガン等を使用しての演奏や、メサイヤコンサート等の生の演奏を体験することができたことは大変好評でした。

学生からの要望・意見

・「履修条件等の指示・説明がなされていない」

→授業で複数回にわたり履修条件等を指示・説明しています。自ら積極的に取り組んでほしいと思います。

・「コメントシートへのフィードバックに時間を取りすぎている」

→コメントシートへのフィードバックは授業に関する質問への解答です。授業内容に関する重要なことを取り上げ理解が不十分なところを補うことを目的としていますので授業の重要な部分と考えています。ただ、時間配分については工夫していきます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

大人数の授業における工夫について

・履修者は1-2年生が多いことや総合教養科目という性格上、内容をわかりやすく解説するように努めていますが、このことが学生の良い評価につながっていると推察しています。

・私語の抑制は、授業内容を良くするしかないかと思えます。

・不定期に発言を求めますので、少し緊張感をもってくれて私語の抑制につながっています。

・受講態度に問題がある学生には、コメントシートを書いている時間に直接注意します。また、目に余る場合は、授業中に直接注意します。

・授業最後に出席カードを配布すると同時に、その日の授業内容に関するミニクイズを出し、それに対する回答を以て出席とみなしています。

・時々、学生に質問をする対話型の授業を心がけることで、学生の理解度の確認を行っています。

・私語を減らすために、机間巡視をしながら、パワーポイントをリモコン操作して授業をしています。

・学生の近くで話したり、答えさせたり、授業時間内で必ず考えさせる時間を複数回設けることは、繰り返し集中させるという点で有効であると思えます。

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年7月13日

■検討組織名(学科・専攻、研究所、科目運営委員会等)：女性のウェルネス

■責任者名(学科・専攻主任、所長、委員長等)：平工志穂

■検討会実施日 2020年3月19日

■出席者数 11名(内、非常勤講師 8名)

## 1. 学生へのフィードバック(学生の要望に対する具体的な回答)

アンケートの自由記述は大部分が肯定的なコメントであり、受講生の皆さんが積極的、意欲的に授業を受け、楽しく学びを深めていることがうかがえました。先生方はそれらのコメントに丁寧に向き合い、さらに良い授業をしていこうと具体的な検討をしてくださっています。

アンケートでみられた要望と先生方の回答等について、以下に述べます。

・レポートが多くて大変だった。

→女性のウェルネスの授業では、スポーツ・運動の実践だけでなく、基礎体温測定や食事調査、女性特有の疾患や症状・健康科学のレポート課題を通して、自分の身体を科学的に見つめ理解を深めることで、皆さんが生涯にわたり健康的に生活するための方法を学ぶことを目的としています。そのため学習したことや実践・体験を文章化・意識化することにより、学習の理解を深め、生活に生かすことができると考えています。レポートは前期・後期に3つずつありますが、枚数の指定はありませんので自分の体を知るための材料としていただきたいと思います。

・同じポーズを繰り返し行うことでしだいにコツがわかっていったのがよかった。ただ、自分の姿勢を鏡で見られるようにすればもっと効果的にエクササイズができたと思う。

→鏡の使用については、逆に一面的に眺めながら授業を受けてしまうので使用していません。その点については授業内でも説明していますが、二人組になってお互いの体の動きを観察して、自分の体を3次的にイメージするように促しています。

・先生のおっしゃり方が早すぎて少しスピードを遅らせたほうが良いと思います。

→授業内容を充実させようとするあまり、内容を詰め込みすぎている部分があるのだと思います。情報の整理、取捨選択をし、聞きやすい授業を心がけたいと思います。

・朝早くてしんどいことが多かったけれど、ウォーミングアップもしっかりとしてくれて、しっかり温まった状態で始められてよかったです。あと、純粋に説明が論理的でわかりやすかったです。

→朝1限から身体を動かすことは、慣れていない人にとってはとても大変だったと思いますが、早朝から決まった時間に身体を動かすことにより身体のリズムができ体調を整える事も出来ます。自分の身体を知り、変化にも気づけるようになります。又、DVDでプロ選手の試合なども観て勉強になったと思います。1人ではできないスポーツなので、仲間と共にしんどいところは励まし合い楽しくゲームまで行えるようになり、仲間意識を大切にしながらコミュニケーション能力も育っていったのではないですか?〇〇という慣れないスポーツに関わり技術を習得することにより、自分は何でもやればできるという自信もついてきます。この先、社会人となるにあたって必要な要素もあったかと思いますので、この授業で得たことを大切に継続してもらえればと思います。

・苦手とそうでない運動のどちらも経験できて良かった。高校の体育では行わないような種目ができてよかった。

→人により苦手種目は異なるので、上手下手と差のないような種目も選択していきたいと思います。

・好評な感想がほとんどでした。今後も引き続き工夫を重ね、良い授業をしていきます。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

本学のみならず、他大学における取り組みや大学体育関連の研究成果も積極的に取り入れて、より充実した授業を行っていきたいと思います。

以下は先生方から頂いた、授業改善に向けた具体的な方策についてのコメントです。

- ・限られた時間の中で、知識を持ってもらうこと、繰り返し実践してもらうこと、そして個人へのフィードバックのバランスを取る工夫をさらにしていきたいと思います。
- ・この授業では、経験者初心者の受講生の割合がその都度変わるため、1つの技術を教えるのに方法を変更する場合がありますが、常に1人1人と向き合い生徒に合った課題を与えながら、最終的には受講生全員が〇〇というスポーツを理解し、試合ができるまでに指導していきます。教室外学習面においては帰宅後に屋外や体育館を利用して取り組んでみたり、屋内でYouTubeやCS朝日、Jスポーツ、NHKスポーツなどでもバドミントンを観て、自分のフォームや動きをチェックすることができます。本物に触れるという意味では、ヨネックスオープンジャパン、日本一を決める大会である全日本総合選手権大会を観戦する機会もあります。これらを利用しながら授業に取り組むことで技術が向上し楽しく有意義な時間になるとと思います。
- ・全ての設問において「ある程度そう思う」以上の回答が得られたこと、自由記述も肯定的な内容であったことから、基本的には現在の内容を継続しつつ、配布資料や雨天時の授業内容について見直し、必要に応じて変更を加えていこうと思います。
- ・ニュースポーツ等の皆が初めてやるような種目も積極的に取り入れていきたいと思います。
- ・今後もこれまでと同様に、学生の一人一人に目を向けた授業をしていきます。
- ・学生の体力・運動能力を踏まえて、ボールの操作やラケットの使い方及びゲームの攻防などのポイントについて具体的に指導していきたい。

# 「2019 年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020 年 7 月 7 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：キリスト教学科目運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：遠藤勝信（キリスト教学科目運営委員長）
- 検討会実施日 2020 年 7 月 7 日
- 出席者数 3 名（内、非常勤講師 0 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

- ・すべての授業の各設問において、学生たちの満足度は高いものであったと思います。学生の意見として「分かりやすい」、「楽しい」、「スクリーンやレジメで説明が詳しく理解しやすかった」など好意的な意見が多くありました。これからもレジメやパワーポイントを用いて詳しく説明し、分かりやすい授業を心がけたいと思います。
- ・「休講の知らせはなるべく早めにしてほしい」という要望がありましたので、なるべく早く知らせよう心掛けたいと思います。
- ・キリスト教にあまり詳しくない学生にも親切的な授業で、絵本の紹介などは難しい聖書の教をシンプルに理解するのに役立つとの意見がありましたので今後も続けます。
- ・詳しいプリント（授業で用いるパワーポイントはすべて縮小印刷）の配布は授業の助けとなったとの感想がありましたので今後も続けます。
- ・大人数のクラスで授業中では学生との対話が難しかったため、コメントシートに書かれていた質問のいくつかを次の授業のはじめに取り上げて答える時間を取りました。「様々な質問に答えてもらった点が嬉しかった」、「私たちの意見を否定せずに受け入れてくれたところがよかった」と好評でした。
- ・LGBT の人にも配慮した授業だったというコメントをいただきました。キリスト教は今日のジェンダーの問題に対して極端な意見を持っていると誤解している人が少なからずいるので、そういった誤解や偏見を払拭するためにも、聖書を丁寧にバランス良く解説して行きたいと願っています。
- ・キリスト教学のクラスを通して、キリスト教への関心と理解が深まったという感想が多数ありました。とても丁寧に分かりやすく、講義から愛が伝わってきたという感想も複数ありました。キリスト教精神をどうにかお伝えしたいとの願いで毎回の講義を準備していますので嬉しく思いました。
- ・課題の一つである礼拝レポートの評価が礼拝出席数に拠るといふ噂について言及するコメントがありました。確かに、教員の側には「礼拝に頑張っている学生の努力に見合う成績を」という願いがありますが、礼拝レポートに対する評価は回数というより、レポートに滲み出ている「キリスト教を誠実に学ぼうとする姿勢」です。
- ・レジメを WebClass に上げて欲しいとの要望がありました。図らずも 2020 年度は、遠隔授業となり、その願いが実現しています。対面授業となってもこの方法は続けたいと願っています。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

- ・出欠を正確に把握することは難しく、30 分以上の遅刻に対してはコメントシートの色を変えるという形で対応しました。しかし、学生の側にはもう少し公平であって欲しいとの要望もありましたので今後の検討課題としたいと思います（他の教員から、遅刻した学生には、教員が直接学生に配布プリントを手渡し、コメントシートには遅刻の時刻を記入するようにしていると、学生は遅刻をしないよう努力するようになったとの報告もあった）。

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020 年 4 月 13 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）： 第一外国語運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）： 塩原佳世乃
- 検討会実施日 2020 年 3 月 13 日 ～ 3 月 31 日まで
- 出席者数 35 名（内、非常勤講師 29 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

- ・学生のコメント：「テキストの文章の難易度が低かったので、もう少し高くてもいいと思いました。」  
→共通テキストの難易度を見て、テキストを選びました。前期の学生さんの様子を見て、後期は補助テキストを入れました。前期から学生さんの実態に合わせて、もう少し補助テキストを入れたらよかったかと思えます。
- ・学生のコメント：「わからなくても、ヒントをくれた」  
→発表やディスカッション前後には、教員、あるいは学生同士で疑問を解消できる時間を設けました。
- ・学生のコメント：「話しかけやすく、質問しやすい環境だった」  
→各課題の後には、質問をし、フィードバックできる時間を十分取るよう心掛けました。
- ・学生のコメント：「授業終了後も質問に丁寧に答えてくれた」「提出したブックリポートに丁寧に添削してくれてよかった」  
→ありがたいコメントを頂きましたが、グループ作業の時はすこし早めに授業を終えることもあり、「早めに予定していた内容が終わったときには、余った時間で何か別のことをさらにできると良かった」というコメントも頂きました。新年度のクラスでは副教材を多めに準備して、学生への負荷を多くし「大変だけど新たな表現や構文、知識を沢山学び、視野が広がった」と充実感を味わってもらえるようにしようと思います。
- ・学生のコメント：「教科書以外の教材が楽しかった」（複数）  
→今後も教科書を中心としながらも、それ以外の教材も適宜取り入れて行きたいと思います。
- ・学生のコメント：「筆記体が読めなくて、板書がわからなかった。」  
→板書を始め、授業中にわからない事があればその場で教師に聞いて解決してほしい旨、何度も言いましたが通じ合えなかったようで残念です。
- ・学生のコメント：「授業が分かりやすくてたのしかった。」  
→英語が得意でない学生が多いクラスでしたので、いかに興味を持たせるかを考え、テキストのトピックと同じサブリーディング等を用意しました。
- ・学生のコメント：「教科書の内容から派生した授業内容もあって、とてもたのしかった。」「TOEIC の問題をとり入れて下さったり、楽しかった。」「先生が皆んなをまき込んで授業をして下さった事。」「毎回の授業がとても楽しかったです。先生の体験談など聞いてとても面白かったです。」  
→使用した教科書の各課のテキストがあまりにも短い為、毎授業サブリーディングの読み物を用意しました。学生がクラスに積極的に参加するという姿勢が英語文化を学ぶ第一歩だという事を強調しました。

・学生のコメント:「文章を読む習慣ができました。」「英語の読書をする機会が増えた。」

→毎月提出の Reading Log の課題にしっかり取り組んだ成果でしょう。

・学生のコメント:「良かった点は、絶対に英語を勉強しなければいけないという、意欲は沸いたが、先生の生徒の好き嫌いが出ていた。」

→学生の意欲をくみ取り、早い段階で意欲を力に変えて英語の力がついてきているという実感を持って授業に臨んでもらえるように指導をしたいと思います。

・学生のコメント:「ブックレポートについて、「多い」と言っても反映されませんでした」

→このクラスでは、毎月 2 枚のブックレポートを提出してもらっており、学期全体で 6 枚提出することになっています。ブックレポートのために読む本については、・面白い本を読む。つまらなかつたり、難しすぎる場合には、途中でやめて別の本を読んで構わない。無理をしないこと。できる限り辞書なしで読む。ただし、気になる場合は、もちろん辞書を引いて構わないことを条件とし、各自楽しく読める本を選ぶように指導しています。上位クラスの学生の中には、相当の英語力を持つ学生も含まれるため、後期には、多読用図書に限定せず、好きなものを選ぶようにと話しましたが、その結果、こちらの期待以上に、難しいのではないかと思われる長い本をしっかり読んでくる学生が目立ちました。相当の力がついたであろうと思う反面、「楽しく読む」ことから逸脱してしまったと思います。多読の目的とやり方について、今一度しっかり指導するべきであったと思います。

・学生のコメント:「グループワークにすると半分くらいの人がさぼるのであまり意味がないと思います。」「グループワークをするのは良いと思うが、知らない人どうしのため、どうしてもお互いに声をかけづらく、一人でやってしまうことが多かった。お互いに協力しあえるように、グループワークした後に、グループごとに当てるのではなく、個人を指名すれば、必然的にお互いに協力しようと思えるのではないかと思う」

→どちらも上位クラスの学生からのコメントです。上位クラスの学生は、テキスト中の問いや要約などのワークについて、自力で何かしらの解答を出す力を持っているために、あえてグループワークをする意義を感じなかったのではないかと推測しました。少し時間がかかりますが、Critical Thinking の課題などについて、グループでポスターにまとめて発表してみるなど、取り入れればよかったと思います。

・学生のコメント:「授業開始 5 分前には必ず来ていて、授業進行がスムーズで良かった。」

→毎回、座席表をランダムに配置して、ペアを変えるために早めに教室に入って準備していました。毎回、座席が決まっていないために探さなければならず、学生のみなさんには手間を掛けましたが、毎回ペアが変わるので、新鮮な気持ちで取り組めたのではないかと考えています。

・学生のコメント:「教科書が非常に簡単で Reading の要素が少なかつたように感じたので、考慮して欲しい。」

→授業では、教科書本文の音声をナチュラル・スピードの速さにしてリスニング活動をしたり、決められた時間のなかで要点を読み取るなどの活動を中心に行いました。その一方で、各自が選んだ多読リーディングについては、時間を掛けて読む力の育成を図りました。ご指摘の点については、多読で補完していたと考えています。

・学生のコメント:「ペアワークが多く、英語を話す機会が多かった。クラスメイトと多く会話する機会があるところ。」

→本文を読む前に、本文と関連する Question を投げかけることで、イメージ・スキーマの活性化を狙いました。またペアワークの後に、クラス全体でシェアするという流れを取ったので、全体の前で学生自身の回答を発表する心的プレッシャーを下げられたのではないかと考えています。

・学生コメント:「新聞の多読はさまざまなレベルの英文が読めて読解力向上につながったと思う。厳しくない授業の雰囲気良かった。」

→多読の教材は A4 サイズ 1 枚という以外は、ジャンルや本文の長さにも一切の制限を設けませんでした。その理由の 1 つには、教材を離れて、新聞や雑誌、本などのリアルな物に触れて欲しいと考えたからです。もう 1 つの理由は、クラスメイトがどのような記事に関心があるのか知ってもらい、興味があればさらに読み進めて欲しいと考えたためです。英語を身につけるためには、まちがいや失敗は付きものです。そのため、間違いを許容する

雰囲気作りを心掛けました。初回の授業で示した 1)寝ない 2)内職をしない 3)スマホで遊ばないという 3 つの約束を全員が守り、Three rules in my class. Everyone should i) listen, speak, read, write and move. ii) enjoy making mistakes. iii) say “Thank you.” when your friends do something for you. を実行してくれたからです。

・学生コメント:「話がわかりやすく、板書も見やすかった」

→いずれも常日頃心がけているところであるので、さらなる向上を目指し、今後の指標としていきたい。

・学生コメント:「教員、学生、相互に声が聞き取れない場面があった」

→授業中のやり取りで受講生の声が聞き取れない場合がありましたので、聞き返した後に、さらに近くまで寄るようにしていました。後方の席との距離はかなりあるので、座席の配置についても後方をあけるなど、今後は気を付けたいと考えています。教員の声が聞き取れなかったのは、英語部分に関してだと思われるので、わかりにくい内容のときは、言葉で確認するだけでなく、板書で補うように気を付けようと思います。

・学生コメント:「個別への解説が丁寧だった」

→引き続き一人一人に注意を向けてフォローしていきたいと思います。

・学生コメント:「テキストの問題の解答を板書してほしい」

→聞き逃したときの質問は授業中に十分になされていると思いましたので、基本的に解答の板書はしませんでした。今後、長い文章になる答えのときは、要点を板書するようにしたいと思います。ただ、すべての解答を書き出すことは、聞き取る力を養うためにも各自の答えを考える力を養うためにも、控えたほうが良いと思っています。今回のアンケートに書かれた要望は授業期間中に気付かなかったので、授業期間中にそれぞれの要望をもっとくみ取れるように、コメントペーパーも活用しながら受講生のみなさんとコミュニケーションをとりたいと考えています。

・学生コメント: Thank you so much! It was a really fun class.

→I increased the amount of written work students received feedback on and corrected their pronunciation more frequently to challenge them more and this seems to have paid off. I will keep working hard to maintain this level.

・学生コメント: It was soooooo exciting! That's because I enjoyed communicate with partner and made many friends. / I think that group work of every class is very good style. / This class is very enjoyable time. We can communicate to all members. / In this class, I had many opportunity of communication in English. So I think that I got a speaking skill and listening skill more.

→From these comments it is clear many students enjoy having interaction with other students and being given opportunities to speak. I would like to tell the students that taking risks, speaking up and working together can be useful for improving language skills. They should try to overcome inhibitions regardless of level.



・学生のコメント: My English skills improved a little. But I have to study hard every day ,I will make a time to study English. / By going to your class, my English speaking skill developed a lot. Thank you very much. / Thank you for the fun class!!I disliked speaking test, but I felt(ママ) a sense(ママ) of accomplishment. / I enjoy this class (ママ)for a year. I had a sense of inadequacy. But I enjoy to study and speak English now. Thank you for your teaching.

→Based on these comments, I think student do need to regularly reflect on their own learning and progress, and adjust their learning styles and strategies. I would like to tell the students to take time out to reflect on their own learning and make changes if needed.

・学生のコメント: I enjoyed this class. Teacher talked us about many interesting speak. Thank you. / 先生がフレンドリーでとても楽しかった。Thank you very much. / 楽しかったです。ありがとうございました！ / 充実した授業でした。 / 楽しかったです！ありがとうございました。Thank you!

→I was very satisfied to read the above comments from the students. They were a pleasure to teach, motivation was high and they had clear goals.

・学生のコメント: Thank you for one year!

→Although the students seem relatively satisfied with the course, though, I and several other teachers have found the textbook problematic. I do not feel it improves students' English sufficiently. Of the surveyed questions, the lowest-scoring areas (though still above average) were whether students felt their spoken English had improved. I would recommend reconsidering the textbook used for DS.

・学生のコメント: I talked a lot of classmates in this class. I heard many topics and thought my opinions. That was good lesson. / I can't speak English fluently. So it's not easy class. But I can have an opportunity to enjoy speaking English. Thank you. / I was really enjoying the class .I was so frustrated that I can't speak well, so I want to continue studying. / I enjoyed this class for a year. Thank you so much .I like talking with someone in English, but I don't have lots of chances. So I love this class the most in my classes which I'm taking.

→I think most students enjoy being given opportunities to interact and express themselves in English. I would like to tell the students to continue to try to find opportunities in the future to use their English as a way to motivate themselves and improve further.

・学生のコメント: Our teacher is kind even in our student don't speak English well. / My teacher is much kind. / It was easy to understand what teacher was saying. It was comfortable for me.

→I try to grade my own classroom language to a level suitable for student comprehension but challenging enough to assist learning. I believe students appreciate and perform better in a learning environment that is safe and supportive, and lowering the affective filter as a barrier to language learning can help. I would like to tell the students to try to not worry when using English and to take chances.

・学生のコメント: 'I really enjoyed this class. Thank you!' 'ほかの授業では教えてくれない細かな発音が学べて良かった'. 'Thank you for the great classes in 2019! It was fun and I could learn many English phrases and words! Moreover, we could learn some knowledge about the environment stuff. American presidents and histories and...in English. Thank you very much. Have a nice holiday!' 'It is good for me that [you] told us the incorrect and correct pronunciation. I can be conscious about my pronunciation'. 'Thank you for your teaching. Your explanation was easy to understand for me, so I think my presentation skills became good'.

→This was the first time I have taught this course. I was perhaps overly cautious in giving four weeks for the practice and final presentations: if I were to teach it again, I would do these in two weeks.

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

教員は、特に学科別クラス編成、習熟度別クラス編成と、それに合う教科書を選定することの難しさを感じており、それらについて色々な方策を講じております。また、主に Reading の授業を通じて進めている「多読」についても、色々なアイデアを共有しております。

(特に重要と思われるポイントには下線を施してあります。)

・教科書に慣れてきたことが、良い面と悪い面の両方に出たと感じます。学生が理解しにくい部分を意識して重点的に取り上げましたが、授業の進め方は速くなる場所もあり、達成感のないまま終わってしまったところもあると反省しております。

・英語に関して様々な考え、希望を持って臨んでいる学生が集まったクラスという印象でした。これまで経験した中でも、はっきりと意見を述べる学生の多いクラスでした。彼ら一人一人の望みに応えられず授業が空回りをしてしまったのかもしれませんが。その場その場で柔軟に対応できるように心がけたいと思います。今回の厳しい評価をこれからの授業に活かせるようにしたいです。

・授業別の評価と私の授業の評価がほぼ同じ結果でした。無難な評価を頂いた一方で、受講者の特色、私の特色が生きた授業展開ができたなら、もっと良かったと感じています。授業では、理数系の学生に物語を読んでほしいという願いから、長めの物語を補助教材として取り入れました。また、毎時間、授業の冒頭で5分間程度多読の時間を取り、ワークシートを書いてもらいました。ワークシートを<書くために読む>のではなく、<楽しむために読む>ことを体験してほしいため、その日に読んだ語数と、簡単なコメント(英語)を書いてもらうだけにしました。

・前年度は予習の時間も授業に組み込み、授業外での学習時間が少ないと感じたため、各課題に取り組む際、授業内の活動を減らし授業外で作業を進めるようにしたところ、教室外学習の時間で「全くしていない」を減らすことができました。下位クラスでは、英語への苦手意識がとて強い学生が多いように感じた。英語の歌詞や映画に関する短い記事などを挟むことで、英語でテキストを読むことに「息切れ」しないよう授業のスピードに気を配りました。

・上位クラスのため、教室外学習を託すためにより多くの学習課題を課す必要があります。学生の「教材」に関する項目の平均は悪くないが、テキストの英語レベルが簡単すぎるように感じました。より興味を引く内容で、英語のレベルも高いテキストを用意してもよいのではないかと考えます。専攻に関連するテキストでも読解可能なレベルに達していました。

・気になったのは以下の3点です。

ひとつは設問2教室外学習の時間ならびに、設問 11 教室外学習の指導に関する項目です。11 がもう少し十分行われると、学習時間もそれに応じて増えるかもしれません。(参考文献の提示については不十分だったと思います。)ただ、英語の力をつけることは多面的で、本科目だけで可能だとは思えません。

つぎに、設問 12 の対象とする分野への問題意識や関心が深まったかどうかの項目です。テキストの内容に応じて、もっと社会への関心を示してほしいと思うことがときおりありました。

3 つ目は設問 14 の読解力が向上したかどうか。この授業の主旨にかかわるものでもあり、指導が十分で

はなかったのだと思います。多読テキストは、それなりに学生に役立ったと思っていますが、もっと、本文の以外のリーディング教材も必要だったかもしれません。

・1つのクラスの教科書は正直、かなり難しいと感じました。「もっと文法などの解説に時間を使って欲しかった」という要望がだされました。担当者としては、時事的なテーマも扱いたいので別のクラスにやったように学生にニューズピックについての発表をさせるというのも、このクラスも行ったのですが、そうするとますますリーディング本来に割く時間が不足しました。前期の担当の先生も、前半を全部終えるに至らなかったそうです。しかし、テキストは良く出来ていて文法項目はなるべく全部、網羅しようと思い、最後までやったのですが、そのあたりのさじ加減がとても難しいと感じました。

・1つのクラスについては、おとなしい学生が多いと感じました。コメントシートを配布して記入してもらうなど、工夫をしたいと考えています。教室外学習の時間について、このクラスでは1時間以上が6名、別のクラスでは10名との回答に、全員が120分ほどリーディングに関する取り組みをするようにしていきたいと思いました。同じクラスに、単語の小テストの結果がいつも満点の学生がおり、感心しました。しかし、その学生の読解力には伸びしろがあると感じました。テキストの本文を読んだ次の週に復習を兼ねた問題を出題して理解を確認し、学生の理解を確認しながら授業を進めていきたいと思っています。

授業外の取組では、多読に年間を通して取り組んでもらいました。後期は、11月までに2万語、その後、さらに2万語を目標として読んでもらい、グループで本を紹介しあいました。やさしい英語で書かれた Graded Readers から、内容に没頭して読むことのできる本を探しつつ、たくさん読んでもらい、その中から「面白い」と感じた本を共有することを目標にしました。前期のはじめには、多読の取組に不満を訴える学生もいましたが、情報交換する中で、他の学生の取組に刺激を受けたのか、皆、積極的に読むようになっていったと感じています。また、Book Report の文章がとても上達していると感じました。2020年度は、席替えをしながら、グループのメンバーを交代し、色々な学生同士が情報交換できるように進めていきたいと思っています。

・皆さん意欲的に十分な予習をして授業に臨んでおられました。英語のみを用いてのクラスでも積極的に問題に取り組み、予定よりも倍近い速度でクラスを進めることになりました。余裕の時間で前期は TOEIC のリスニングやリーディングの問題をプリント教材で配布し、演習を行いました。後期は TOEFL を皆さんが受験されることになっていましたので、テキストを早めにすべて終了して、TOEFL 対策に最後の3回を当てて集中的にリスニングとリーディングを練習しました。学生の皆さんからはコメントとして「丁寧にクラスを進めてもらえた」「丁寧に質問にも回答してもらえた」というありがたいコメントを頂きましたが、私自身の反省としては、前期の段階から TOEFL 対策を毎回なんらかの形で取り入れておけばよかったと思いました。特に TOEFL のリスニングは TOEIC よりもレベルが格段に高いため、前期からクラスのルーティンワークとして取り入れておけば、学生の皆さんのためになったと反省しております。

さらに、授業アンケートとは別に実施した TOEFL の振り返りシートでは、テキストを用いたクラスではすべて授業を英語で進めていたが、時にはリーディング本文の意味や構文を日本語で理解できているか、確認してほしかったというご意見をいただきました。(ただし、TOEFL 対策では日本語を使用して学生を指名し、リスニングのポイントやリーディングの演習を実施しました。)新年度のクラスでは、理解を深めるために日本語での確認が必要そうな部分は、臨機応変に学生を指名して確認してまいります。

このクラスの皆さんは総じて英語力が高く、テキスト以外にさらに難易度の高い教材を副教材として取り入れてよいということが分かりましたので、春休みの内に副教材を集めてまいります。

・皆さん明るく元気で、4月の初回に自己紹介と英語学習についてコメントを提出していただいたのですが、「英語は苦手」「とりあえず単位は取りたい」「苦手だけど、英語がうまくなりたい」という苦手意識を反映した思いを率直に書いておられました。最初の一ヶ月、すべて英語で授業してみたものの、指名しても口をつぐんでしまう、も

しくは眠っている方が見られたため、皆さんの様子を見ながら日本語でテキストの内容を確認する場合もありました。また、リスニングも TOEIC や TOEFL の易しめの問題をプリント教材で配布し、練習しました。グループでリーディング教材について共同作業を行い発表してもらった時間も取りました。共同作業については少し余裕をもって時間を取ったため、2時限目のクラスに比べると進度はゆっくりとしておりました。

・補助教材について、理解が深まった、面白かった、などの意見がある一方、難しかった、大変だったとの指摘もありました。来年度は、補助教材の難度や分量など工夫したいと思います。

・事前に課題を与え学生による発表を行うことで、授業の活性化を図りました。

・教室外学習にかけた時間として「週一時間未満」との回答が担当の2クラスそれぞれにおいて18名、19名と大多数でした。教室外での学習方法についてはかなり具体的な指導を心がけておりましたので、課題の難易度および量について検討の必要性を感じております。設問13・14どちらのクラスに対しても総合的な満足度に対して、読解力の向上があまり感じられないという声が一定数ありました。さまざまな読解練習や語彙増強のための指導や小テストの他に文法項目の確認なども随時行なっておりましたが、さらに効果的な指導のあり方を模索してまいりたいと思います。

・学生の教室外学習を促進する工夫としては教科書以外の素材(The Guardian のオンライン版、BBC や BBC の青少年向けニュースサイト Newsround の記事など)を用いて、現代の諸問題に対する意識を高められるような工夫をいたしました。なかでも特にジェンダー中立的な代名詞についての記事と環境活動家グレッタ・トゥンベリ氏についての記事は学生たちの知的関心を刺激したようで、非常に活発な意見交換が見られました。

・授業で最も力を入れたことは、声を出して英語を読むこと、クラスの前で英語で発表すること、自発的に授業に参加すること、この3点です。英語が苦手な学生の多いクラスでは、声を出すことをためらう学生が多いこともあって、意識的に声を出し、発言の回数を多くする授業を目指しました。アンケート結果から、読解力がついたと感じる学生よりも、読解力がついていないと感じる学生の方が多かったことがわかりましたので、今後は学生が読解力の向上を実感できるよう、テキストの文意、文脈の理解を明確にするための解説と学習法に工夫をしていきます。

・自由記述欄には「面白かったです」とありましたが、設問毎の集計結果を見ると、平均的にあまり集計値が高くありませんでした。原因として考えられるのは、①本年度は、教科書の読解、問題演習にやや集中しすぎたため、学生の授業外学習への配慮(特に、図書館や CALL 学習センター、キャリア・イングリッシュなどを利用した自主的な reading を促す試み)に欠ける面があったのではないかと、②授業時の指名解答方法や課題発表方法など、前期担当の先生ともう少し連絡を密にし、学生の学習リズムの円滑な継続に配慮が必要だったのではないかと、という点です。特に前者については、学生個々の reading への自主的な取り組みを伸長することができるよう、来年度は個別のポートフォリオなども利用して積極的に授業運営にあたりたいと考えています。

・2つのクラスを担当させていただきました。全体的にはどちらのクラスも良い雰囲気でしたが、学習態度や意欲、宿題の出来具合など(やってあるかどうかも含めて)に差があって、5限は一日の最後にもかかわらずかなり前向きで積極的な発言などがありました。4限では、一部私語が目立つなど授業態度も含めて気になる学生がいて、今回のアンケート結果をみても、それが現れているように思います。4限は下のレベル、5限は真ん中のレベルであったことを考えると習熟度が影響していると考えられますが、もっとそれぞれに合わせた教え方を工夫すべきであったと反省しています。また、どちらのクラスにも言えることですが、教室外学習の時間が非常に少なく、今後はもっと学習につながる課題を出す工夫をしたいと考えています。

・各マテリアルをていねいに読み込む利点と、スピードが遅くなってしまふ欠点を、どのように兼ね合いをとっていかかが今後の課題だと思いました。

・アンケート結果についてはありませんが、使用テキストについて反省点がございます。今年度は、上位クラス、下位クラスともに Skillful 3 をテキストに使用しました。下位クラスの学生にとっては、テキストが難しかったようで、内容を理解するのに精一杯であり、読解を深めるところまで至りませんでした。下位クラスの学生には、別の、もっと易しいテキストを用意すべきであったと思います。

・設問 14「読解力が向上しましたか」に対して、18 人中 4 人が「非常にそう思う」、12 人が「ある程度そう思う」となっていますが、期末テストの結果を見る限り、学生は授業での説明をよく聞いておらず、高い読解力が身につけているとは感じられません。読解力が向上しているのだとは思いますが、学生が持つ「高い読解力」の基準を少しでも上げられるような授業運営を考えてみたいと思います。

・多読本を教室外の課題として、進行状況の簡単なレポートと合わせて、継続していくのが英文の読解と取り組む科目としては重要だと認識します。学生一人一人の興味に沿った、自分での選択によるジャンルの英語長文が効果的ではないかと思われます。

・設問 3 から設問 14 の 12 項目のうち 8 項目で平均 3.5 を超えていた。(平均 3.4 の項目が 2 つあった。) 17 名の回答のため、比較的、人数の少ない回答だが、概ね良い評価を得られたのではないかと考えています。「この授業は、よく準備・計画されていたと思いますか。」という項目で、平均 3.7 の数値を得られたのは、履修者に評価してもらえたのかと考えています。

・多読では、履修者全員に A4 サイズ 1 枚に興味のある英文を提出してもらいました。(毎授業 2~3 名の)担当者は、本文の要約をプレゼンしてもらいます。その他の学生は、授業の前日までに Discussion Question を提出することで、多読をしたという判断にしています。プレゼン終了後に、1~2 分程度の時間を取って、ペアの学生とそれぞれが作ってきた Discussion Question を基に英語でやり取りするという活動を授業の冒頭に行っています。

・授業の最初に小テストを行いました。その際に範囲となる箇所を Web Class に挙げたことで、いつでも試験範囲の英語に触れられる機会を設けました。また試験そのものは、少し頑張れば、点数が取れる内容にして、履修者が諦めないで取り組み易くなるように工夫しました。

・項目 3 から項目 14 において、おおよそ平均 3.5 から平均 3.8 の評価を得られました。シラバスに基づき、教科書の解答は Web Class に挙げるなど学習し易い環境作りに注意を払いました。特に授業外の課題、小テストについては、明確にして、欠席した学生へのフォローも心掛けました。

・テキストの題材に興味をもってもらえるように、トピックに関連した映像を取り入れました。また、時事問題に関連する英文を題材とした演習を行うなど、試行錯誤を行いました。より活気のある授業を実施するべく、今後も引き続き工夫を凝らしていきたいと考えています。

・授業外学習としての多読本の記録および期末レポートには、各々が関心のある分野の英文を積極的に読むことができたことによる発見や楽しさが述べられていました。学期当初、記録の書き方に戸惑う学生もいましたが、回収したコメントを踏まえた説明を行い、具体例を示すなどした結果、総じて多くのコメントが寄せられるようになりました。改めて、説明の仕方の重要性を認識するとともに、来学期にはより積極的に課題に取り組める環境をつくれるよう、努めていきたいです。

・あるクラスでは、FCP の受講が達成できなかった人が気になっていたので、設問3、4のシラバスについての解答に注目していました。評価は全員 3 以上で、シラバスは活用してくれていたようです。しかし実際には、授業の評価方法がしっかり理解できていなかったため、FCP の重要性に気付かなかった学生がいたと思われることが残念です。FCP について、時間数の半分しか達成できなかった学生が二人、全く行わなかった学生が一人いました。授業には出席していたので何度か声をかけましたが、試験でがんばります、という返事で、評価に FCP が大きく関わるのが実感できていないようでした。次年度からシラバスを説明する一回目の授業の時に、評価の具体例を出して説明しないとイケないと考えています。他の設問については、今年度は前期の全体的なやる気が後期に失速してしまった印象でしたので、どのように評価に表れているかが確認できて有用なアンケート結果でした。教材の工夫につなげたいと思います。

・設問3から13については、平均 3.4~3.7 という評価でしたが、設問 14 の「読解力が向上しましたか」という設問に対する評価が平均 3.1 と低くなっています。「非常にそう思う」が 3 人と少ないので、読解力の向上を授業中に実感できる授業にしていかなければいけないと考えています。設問2の「教室外学習の時間」については、平均 1.8 時間とよく授業準備もできていたと思います。授業準備をしっかりとしてきている学生さんが多かったと感じています。

・The evaluation scores were significantly above average in all surveyed areas. For example, in response to the question, 総合的に判断して、あなたは授業に満足しましたか, 18 out of 20 students answered 非常にそう思う and 2 ある程度そう思う.

・This class made good progress and by the end of the academic year were working very well in class. In the first term some of the weaker students struggled with the new textbook as well as with using only English in the classroom. However, by the second term, they managed to collectively adjust well and make good improvement.

・There were many studious students in this class and a number of whom had a higher level of English. There was a very good atmosphere in the class and most student tried very hard to express themselves in English. There was a competitive element among students which helped drive students to do better. Having some international students helped this by exposing others to different learning styles.

・In some classes this year, because of quite different levels of ability between my two classes, I found I had to make adjustments when using the new textbook in class. My weaker class found some of the material a bit too challenging and the volume of activities a bit more than we could complete in class. For these reasons I had to trim it down and be more selective for the lower class. I found it useful at the end of units to have students to either have discussions, take part in roleplays or mini-presentations. I found this, together with quizzes I created, to be very helpful for evaluating student performance.

・At the beginning of the class, I checked to make sure everyone did their assignments. Then I would have the students practice with a couple of different partners using the home assignment. This could be a short summary of a reading passage, or a personal experience or opinion about a related topic. This gave them the chance to improve their spoken fluency and review the vocabulary. Then I would pick 5~6 students at random to do the summary in front of the class without referring to their notes. This has proved very successful as this activity

keeps all students concentrating. Because of this, most students prepared their work well as they felt they had to perform and compete.

•I was myself very happy to be able to have the new textbook for some classes, and I hope to be able to make even better use of it in the next academic year.

•I have taught at TWCU for three years. A significant change I made in my classes this year was by following the advice of the textbook teachers guide I sat my students in groups of four rather than the usual desk layout of two students together. I recommend that to all teachers. I was surprised by the rise in enjoyment, happiness, laughter and energy. That was the most significant improvement in my classes in 2019. Also I feel that the new textbook is significantly more interesting and engaging than the previous textbook. That was helpful too and that will continue as all of the teachers become more familiar with that textbook.

•My courses were on the whole very good. The level and motivation levels were quite distinct between the upper and lower classes students, but once again, assignments were duly handed in promptly and class atmospheres were strong and positive.

•My overall impression is that students enjoy the class, as it is filled with a variety of classroom activities which enable them to learn language skills in a relaxed environment. Vocabulary is introduced through listening and writing exercises, and writing assignments further develop language skills using the vocabulary learned throughout the course. Vocabulary, writing, listening and speaking midterm and final examinations are given for students to measure their progression in English.

•A class offers a valuable time for the students to use English in many situations, but the students should be guided to understand how these phrases are universal and can be used in various situations. This past year I had the students gather news articles on contemporary topics related to the lessons to share in class. Having the students use the target language in various ways and circumstances attuned toward their likes will help motivation them and to retain the information. I am going to explore instituting collaborative assignments to build on the students' interests in hopes of fostering a sense of teamwork. This will be an incentive to use the target language while sharing their ideas. I want the goal in the class to produce a product and the language toward that goal.

•The evaluation scores were above average in all surveyed areas. This was my first time teaching some class. I incorporated student-led activities such as media topic discussions to supplement the textbook.

•As a result of their lower level of English, this class initially struggled with open discussion and expressing themselves with some higher-level topics in the textbook. This caused some frustration for some students at first, but by the second term most had overcome this and by the end of the term were making better progress.

•This class made much better progress throughout the year as they had more ability and were less inhibited at speaking out with their ideas and opinions. They worked well with the textbook and their own materials. They seemed to enjoy leading discussions and interacting with others in class.

•In my classes I found it helpful with some of the more challenging topics to give students the chance to write their own discussions based on their own ideas and opinions at home before speaking in class. They enjoyed the creative freedom and it gave me the opportunity to correct errors in their language on an individual basis. It also seems to give students greater confidence when engaging in discussion later in groups. I also found giving students the opportunity to choose their own topics, prepare and lead discussion to be motivating for most students.

•I am pleased that the results for some courses are relatively high. I put a lot of effort into these courses and shared supplemental resources and plenty of teacher-made materials with the students. However, what concerns me is that two students did not feel that their listening and speaking skills improved much after taking some class. I found this outcome somewhat surprising because the class is an output-based course. Every week the students had to engage in pair and group work to complete in-class assignments. Pairs and groups were assigned randomly, so the students were exposed to a variety of opinions and voices. In addition, they had homework that they had to complete in order to engage in group work in “Media Discussions” in the classroom.

•A class learners were excellent at participating in activities and tasks.

•I taught two courses and the feedback from evaluations varied for each class. In my first period class, I received my highest rating in the sections that were related to question 9 and 10. The students felt that I made sure to pay attention to the students understanding of the material and they felt that I was fair. In my second class, questions 7–13 had the highest marks. The students in that class felt strongly that I made the course easy to understand, used the right materials, paid attention to the student needs, applied fair treatment to each student, and showed accuracy in assignments. They also felt that they became more interested in English after my class and were overall satisfied with my class. All of these things were positives and I feel a direct result of my teaching style and the way that the course was set up. I feel the course is set up well for the students in the class. I was given guidelines that were clear and deadlines for exams were given, but otherwise I had the autonomy to design the class the way I wanted to. My students were pretty self-motivated and didn't need a lot of direction from the instructor. For that reason, I believe the textbook “Discussion Strategies” works well. The units are quite short however. I discovered at times that the students could move through the textbook quite quickly. To combat this, I often gave homework that involved researching the following weeks topic and they would discuss what they discovered in groups at the beginning of each class. They then would share with the class what they found. This seemed to work well as an ice breaker and introduction to the topic of the week. My main focus was to make sure everyone in the class had opportunities to talk and use English either with their partners, groups or the class as a whole. I felt like the topics in the textbook led to a lot of interesting discussions with the students.

•The mandated textbook for this course is *Discussion Strategies* (Second Edition). It was my first time to teach with this particular book. I found that the textbook had both strengths and weakness, which I outline below:  
Positive Points: • The articles, covering a range of general topics (e.g. stress, divorce, telling lies), are engaging for young learners, even though the textbook is over 20 years old. • The structure of the book (Student A, B, C) makes pair work and groupwork discussion more convenient, interesting and practical and encourages a balance of reading/discussion opportunities. The book includes several practical Discussion Strategies (Clarification Questions, Comprehension Checks, Agreeing, Disagreeing) There are plenty of interesting



discussion questions, which prompt learners to consider and share their own ideas. In general, the students seem to enjoy using the textbook. Negative Points: Some of the pair work and group work activities in the book are a bit tedious and complicated to set up and execute. Some pairs and groups pretended to understand the activity and carry it out incorrectly until the teacher was able to intervene and explain the activity again. It is not a simple textbook to use, at least not at the beginning. Although the textbook includes dozens of practical discussion expressions, for whatever reason, my students did not seem motivated or inclined to memorize or use them in the weekly discussions, even though their score on the oral and written final exams reflected their usage. There are no discussion dialogs, so there is no context regarding how the discussion expressions are naturally used, or how English-language discussions begin or end. · There is nothing in the textbook about developing English-language pronunciation. · If a student forgot their textbook, it would be difficult for them to participate in pair or group work.

· Although there was individual variation, in general, I'm not confident that the students make significant or lasting progress in the end. This may not be the fault of the textbook itself; the course only meets once a week and such limited time to practice and develop a language is far from ideal. I was also concerned with the students' level and wondered if this textbook might actually be too challenging. Many of them seemed to possess only a basic foundation of English (grammar and vocabulary). They are then expected to participate in English discussions, even though they do not have the competence to form basic English questions or other necessary language forms. Consequently, some students really struggled or strained to comprehend their classmates or express themselves, not having sufficient vocabulary or range of grammar. Considering this, I'm not sure this textbook is suitable for lower level students.

· In accordance with the syllabus, there is both a speaking exam (discussion) and writing exam (writing a dialog). Each test accounts for 20% of a student's grade. But since this is a discussion course, with students mainly speaking and reading aloud every week, it's not clear to me or the students why they are required to take a writing test, as this does not directly reflect or measure what students are expected to learn or do in class, which is mainly speaking. In other words, it lacks test validity. Apart from note-taking, no writing is done in class or for homework. My sense is that some students regard such a test as unfair or pedagogically irrelevant, and I tend to agree. My suggestion would be to offer two speaking tests during the course, a mid-term (in pairs) and a final exam (in groups). I think this would have a greater and more positive back-wash effect on learners, as it puts greater pressure on students to develop and practice their speaking skills. Moreover, this assessment is consistent with other speaking and discussion courses at other universities.

· At TWCU I am accustomed to having highly motivated students who show a willing attitude to try learning English and have fun in class. In AY 19/20 however, I had students in my classes that were less than willing to engage in the English speaking activities and I as the teacher sometimes had moments of frustration. In the future, if this problem happens, I will be more ready for it and take steps to help mitigate the issue. As usual, in a class, group speaking activities in small groups help students gain confidence needed to express opinions with each other in a non-pressure situation. Students further develop their speaking skills in front of class discussion practices. Students are also assessed in timed speaking tests of which their speaking participation is measured in how well they expressed agreement and disagreement and used answering with details to support their opinions.

• In some courses, I administered questionnaires twice in each semester. The purpose was for me to understand what the students' needs were and how they were doing in the courses. I was hoping that any unsatisfied students would let me know what they wanted so I could adapt the content and engage these students. I also uploaded an online form for the students to make suggestions and requests about the course content, assignments, and the way the course was run. The form stayed open for comments throughout the school year and the students had a chance to share their comments and ask questions anonymously. Unfortunately, in these courses, there were no requests made. In order to engage students more effectively, next time I plan to ask more frequently for student suggestions about what students would be interested in. That could be particularly useful in the course where teachers have more opportunity to provide supplementary materials. That being said, as most second-year students (in particular non-English majors) take only one English speaking course once a week, they do not get so much opportunity for English output in class. They also have little opportunity to use English outside of classroom. Therefore, some of them might feel that their speaking skills have not improved substantially. I am thinking about assigning relatively easy "homework" tasks that would encourage the students in the next academic year to use or pay attention to how English is being used and how they could use it outside of classroom.

• The evaluation scores were significantly above average in all surveyed areas.

• My class was a great class to teach with highly motivated students and despite a range of abilities and proficiencies, they all performed very well and seemed to really enjoy the class.

• My two classes was similar in nature: a joy to teach and facilitate with great students who produced quality work throughout the course. One approach I would like to implement in future classes that I did not get the chance to do this term, is having students create visual narratives to describe their learning experience. This would provide broader information about learners' motivation as well as having the benefits of enhancing students' self reflection and autonomy.

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2022年2月24日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：第二外国語運営委員会

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：尾尻希和委員長

■検討会実施日 2020年4月7日

■出席者数 6名（内、非常勤講師0名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

受講生から、

①口頭の説明だけでは分かりにくい、参考書を推薦してほしいという要望がありました。市販の参考書などは、それだけ十分なものではありません。授業をよく聞いて分からないことがあれば担当教員に質問するのが語学上達の最善の方法です。ただし復習には文書資料が欲しいともありますので、文書による補助資料を充実させるように努めます。

②教科書の練習問題の量が少なく不安だという指摘がありました。これについても補足の練習問題等を充実させるように努めます。

③学生同士で会話する機会を増やして欲しい、という要望がありました。必要な文法項目をこなすのにかなりの時間を取られていますが、コミュニケーション能力の向上も語学の主要な目的の一つですので、できるだけ発言の機会が取れるようにします。

④定期試験だけではなく、小テストによって細目に評価してほしいという意見がありました。小テストを含む平常点の比率を高めることにしました。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

①教室外学習の時間を十分にとり、受講者が自主的に学習するための補助になるような各種資料、課題を充実させます。

②到達度評価の段階化・細分化について：学期末の定期試験だけでなく、授業毎回あるいは数回に一回程度の頻度で小テスト等を実施することによって、従来以上にきめ細かな評価と指導ができる体制にします。

③授業中の受講者の発言機会を増やすようにします。ただし受講者の性格によることも大きいので、負担になりすぎないように配慮します。

報告日：2020 年 4 月 7 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：日本語科目運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：熊谷智子
- 検討会実施日 2020 年 3 月 16 日・24 日
- 出席者数 3 名（内、非常勤講師 2 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

○「添削のコメントの文章量をもっと書いてもらいたかった」という要望に対して。

→必須課題4回に加え、自由課題に対し、時間の許す限り全員分添削してお返しています。今年度は、非常に熱心に取り組んで下さる方が多いクラスでした。同じ注意を促す必要がある場合もあり、その際、模範解答を添付のうえ、添削のコメントとしてお返しせずに、授業で扱ったり、一人一口頭でお伝えしたりするようにしていました。今後も時間の許す限り、添削を丁寧にしていきますが、ご理解いただけたらと思います。

○全体的には高評価をいただいたようですが、設問5と設問13に関して、「あまりそう思わない」とした方がいらっしゃいました。まず設問5に関しては、シラバス通りに準備・計画をして進めたつもりでしたが、授業を運営する上で、学生諸君の課題の進捗状況などを鑑み、時間を多くとる、早く切り上げるなど臨機応変に対応しました。そういった点が、あまり準備・計画がされていないと感じられた要因かと思えます。対策として、今後はあらゆる状況を想定して授業パターンをいくつか予め考えていこうと思えます。ですが、授業というのはそもそも、教員一人で作るものではなく、学生諸君と共に作り上げていくものだと思います。そのため教員の計画通りには進まないこともあり、すべてが教員のコントロール下に置かれるものでもありません。また、そうであるべきだとも思いません。特にアクティブラーニングの授業は、時として教員の想定外の内容になることがあり、むしろそのような状況こそが望ましいのではないのでしょうか。しかし結果として授業にあまり満足できない方がいらっしゃったことは、教員として授業の改善余地があるものと受け止め、今後も創意工夫を続けていきたいと思えます。一方、レポートの添削がとても勉強になった、レクリエーションのような活動で多方面から日本語を学べた、というご意見をいただきましたので、これらは今後も続けようと思えます。「先生の鋭い指摘がとても好きでした」、「楽しく刺激的な授業」というコメントを嬉しく読みました。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

○授業内で引用や要約の仕方を学び、その場で練習してもらう機会を設けていますが、実際のレポートに授業で学んだことが反映されていない答案も(数としては少ないのですが)見受けられました。授業で学んだことに対し、「役立っている」という実感をもって意欲的に学んでもらうためにも伝えた回に課題をすぐに出すなど実践に結びつけていくように工夫したいと思えます。

○提出していただいたレポートは、すべて添削して返却しています。毎年行っていることですが、学生諸君からの評判もよく、レポートを書く上で力がついたという実感を得られているようなの

で、今後も続けていこうと思います。また、グループ内で互いにレポートを読み合うことについて「他の人のレポートを読める機会はないので勉強になった」という感想をいただきましたので、今後もこうした機会を積極的に設けていこうと思います。改善点としては、今年度はグループワークの際に、グループ毎にかかる時間の差が大きくなりました。前年度まではこのような差があまり生じませんでしたので特に時間制限を設けませんでした。今後は時間制限等を設け、こうした事態を避けようと思います。また、プレゼンテーションについてももう少し詳細な指導ができたのではないかと感じていますので、今後はさらに工夫を凝らしていきたいと思えます。

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020 年 4 月 14 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：情報処理教育運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：加藤由花
- 検討会実施日 2020 年 3 月 19 日
- 出席者数 5 名（内、非常勤講師 0 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

全ての科目において、「自由記述欄」への記載はありませんでした。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

- ・ ソフトの細かい操作ではなく「なにができるか」や困ったときのテクニックを指導しています。たとえば、表でも行間を縮めることができ、ページ数指定のあるレポートでも対応ができることなどです。また、Word と PowerPoint のメディアの違いについては重視しており、読むメディアと見るだけでわかるメディアでの表現方法を、比較できる形（同じ題材を用いて）で指導しています。さらに、現在リテラシとして必要な、データや表やグラフにすることについても、必ず守らなくてはならない縦軸と横軸の説明（単位など）を繰り返し説明しています。
- ・ 多くの授業で、教室外学習のために WebClass (e-Learning) を活用していくことを考えています。

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年4月27日

■検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：教職課程

■責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：大家まゆみ

■検討会実施日 2020年3月19日

■出席者数 4名（内、非常勤講師2名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

・教育の思想や歴史を展開するにあたって、「女性たちが自らの人間形成・人生形成において教育にどのような願いを抱き、関与したか」という観点を取り入れたところ、女性の生き方を考える上で参考になったという意見をみることができました。

・「出席が厳しい」とのご指摘が自由記述欄にありました。初回に出席の取り扱いについて説明したのですが、融通の利かないルールを提示したことがよくなかったかもしれません。再考してみたいと思います。また、使用した映像について高く評価するコメントがありました。授業内容を補足し印象付ける映像など、今後もバランスよく使用していきたいと思います。

・「映像資料を使って、学校や学校を取り巻く社会状況を実践的に把握することができました。」という感想をいただきました。これからも映像等の視聴覚教材を取り入れた授業を展開したいと思いません。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

・女性自身の生き方や教育観が人間形成論や社会のあり方に及ぼした影響を多角的に考察できる著作物、史資料（映像資料・音声資料を含む）を授業に取り入れ、学生たちと共有し考え合う時間も今後大切にしていきたいと思います。

・「出席が厳しい」とのご指摘についてです。出欠確認を厳密に行うことはかえませんが、遅刻・欠席分をレポートで補ってもらえるなどもう少し柔軟な対応が可能か、検討してみたいと思います。また、映像を使用すること以外にも、教員が一方的に話をする以外に何が可能か検討してみたいと思います。アクティブ・ラーニングは実は不評だったりすることが多いのですが、学生の心理的負担にならない楽しめるものをいくつか用意していきたいと考えています。

・「プリントを穴埋め式にしてほしい」という意見がありました。テキストを指定して、授業中にテキストの当該箇所を示しながら授業を進めております。科目が扱うトピックや内容によって、用意する資料の形態を整えております。重要な箇所は自分自身で判断し、理解する自主的な学習態度を育むことが望ましいと考えています。

# 「2019年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020年 4月 27日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：学芸員課程運営委員会
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：高橋 修
- 検討会実施日 2020年 4月 24日
- 出席者数 4名（内、非常勤講師 2名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

○実物資料をはじめ、ちらし・ポスター、博物館で実際に用いられている保管器具類を授業内で紹介したため、授業内容を理解する上で役に立ったという回答が寄せられました。学芸員課程の授業は現場での実践性を重視していますので、今後も博物館での勤務の実際についてより具体的にイメージできるよう展開してまいります。

○レポート課題の時期について、他の授業のレポートと重ならないようにして欲しいとの意見がありました。レポート課題の内容は学生の実力から無理のない内容・期日を考慮した上で設定しています。レポートに対する取り組み姿勢については、実際に作業に取り掛かるまで時間がかかり、いわばスロースタートである場合が多いように見受けられます。したがって、学生の皆さんはこの点から改善するよう努めてください。

○板書が読みにくいという指摘がありました。改善に努めます。あわせてどの部分が分かりにくかったのか、授業後にご指摘いただければ、より具体的な改善に向けて参考となりますので、ご指摘ください。

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

○学芸員課程では2017年度から『教職・学芸員課程研究』を発刊し、本学卒業生の声や博物館関係の就職先等を公開しています。2019年度に第2号を刊行し、資格取得者・実施事業等についても含め、最新の基礎的情報を紹介しています。今後も文化施設に勤務する本学卒業生の声を紹介することで、将来のロールモデル構築の参考となるようにします。図書館及び教職・学芸員課程オフィスで閲覧できるようにしていますので、課程履修にあたり参考としてください。

○上記『教職・学芸員課程研究』には博物館に関する専門論文が掲載されています。同誌掲載の論文を授業内で課題として課すことにより、より専門的知識が身につくように工夫をしました。



# 「2019 年度後期 学生による授業評価」に関する検討会 報告書

報告日：2020 年 4 月 8 日

- 検討組織名（学科・専攻、研究所、科目運営委員会等）：女性学研究所
- 責任者名（学科・専攻主任、所長、委員長等）：女性学研究所 所長 唐澤 真弓
- 検討会実施日 2020 年 4 月 8 日
- 出席者数 4 名（内、非常勤講師 1 名）

## 1. 学生へのフィードバック（学生の要望に対する具体的な回答）

（省略で問題ございません）

## 2. 授業改善等に向けた具体的な方策

女性学・ジェンダー関係科目全体として、全学的な平均からくらべると、肯定的な評価が多くなっています。今回も「非常にそう思う」など回答の割合が高かった項目は、設問 4（シラバス有用性）、設問 6（授業の理解）、設問 12（問題意識の深まり）、設問 13（総合的満足度）などです。

しかし今回も設問 2（教室外学習の時間）で「週 1 時間未満」、「全くしていない」という回答が 88.9% と大変多いことはさらに改善策を考える必要があります。今年度は昨年度の結果を受け、授業外学習を促すことも狙いとして、女性研の蔵書などの文献紹介や精読を薦めることに務めました。2019 年 12 月になりましたが、蔵書ならびに閲覧環境を整備して、「女性学研究所図書資料室」をリニューアルし、院生・学部生を合わせて少しずつ利用が進んでいます。また、ある科目では、「女性兵士・女性自衛官」に関連するニュースを講義の導入に持ってきた回の授業後のレスポンスでは「最初の新聞記事の紹介によって興味をひかれた」等々の記述が目立ちました。これらの学生の意見を重視し、現在の紛争・戦争における女性問題を新聞やテレビ報道を通じて収集し、それを「講義内容」および「学生の教室外学習」の双方でさらに活用していくことで、参加者の学習意欲の喚起につなげたく思っております。

以上のように学生への女性学・ジェンダーに関する知識などの理解度の点検・配慮をより高めるよう工夫し、女性学・ジェンダー分野の問題についてさらなる学習を促すように、また教室外学習の時間をかけるために課題を増やすなど、より一層努めながら関係科目のさらなる充実を図りたく思います。